

診療放射線技師の「ポータブルスキル」※

富田 博信

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

近年、医療現場はますます多様化・高度化しており、診療放射線技師に求められる能力も日々進化しています。そうした中で注目されているのが「ポータブルスキル」、すなわち業種や職種が変わっても通用する“持ち運び可能な力”です。私たち診療放射線技師は高い専門性を持つ一方で、組織や立場が変わった際にその力をどう発揮するかという点に課題があるのも事実です。特に近年は、病院の再編や働き方改革が進む中で、技師としての「専門力」と「人間力」の両立が、これまで以上に求められています。



本会では、こうした時代のニーズに応えるべく、会員の皆さまがポータブルスキルを身に付け、実践の場で生かしていただけるよう、マネジメント研修会をはじめとするさまざまな講習会を開催しています。専門知識や技術はもちろんのこと、チーム医療に必要なコミュニケーション力、柔軟な思考力、課題解決力、そしてリーダーシップなど、あらゆる現場で通用するスキルの育成を重視しています。

また会員の皆さまにおかれましては、本会や都道府県（診療）放射線技師会の活動を積極的に活用することで、他施設の仲間と意見を交わし、異なる視点に触れ、自身の技術や姿勢を見つめ直す貴重な機会にもなります。こうした経験がさらなるポータブルスキルの向上につながり、ご自身の可能性を大きく広げていくことにつながるものと確信しています。

一方で、私たちは現在、「会員4万人」という大きな目標を掲げています。これは単なる数値ではなく、全国の診療放射線技師が連携し、互いに学び合い、支え合うことで、より強い発信力と専門職としての地位向上を目指すための指標でもあります。この目標の達成は、診療放射線技師が社会の中で確固たる役割を果たし続けるために、欠かせない取り組みであると考えています。

さらに私たちは、最新の科学的根拠と国際的動向を踏まえ、診療放射線技術の在り方そのものも常に見直しています。その一例として、2025年1月には、「股関節撮影時の生殖腺遮蔽の見直し」に関する重要な声明を、日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会、日本放射線技術学会と連携して発表致しました。この声明では、生殖腺遮蔽の有効性や安全性に関する最新の知見に基づき、遮蔽を行わない方針を推進することが明示されています。患者への十分な説明と情報提供を通じて、科学的根拠に基づいた、より信頼性の高い医療を提供することが、私たち医療従事者の責務であると考えています。なお、「股関節撮影時の生殖腺遮蔽の見直し」についての詳細は、本会Webサイトに掲載しておりますので、ぜひご参照ください。

診療放射線技師の未来は、私たち一人一人の行動と成長に懸かっています。共に学び、共に高め合いながら、次代を担う技師像を築いてまいりましょう。今後とも、会員の皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

※「ポータブルスキル」とは、職種の専門性以外に、業種や職種が変わっても持ち運びができる職務遂行上のスキルのことです。

引用：厚生労働省Webサイト https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_23112.html